

2017年3月期 第1四半期決算説明会 主な質疑応答

日時：2016年7月29日（金）16:00 ～ 17:00

出席者：取締役 常務執行役員 財務部門長 浜田 昭博

広報・IR グループリーダー 小林 太郎

太陽電池向け多結晶シリコンに関して

Q1 : 今後の市況についてどのように分析していますか？

A1 : 市況が上昇して稼働を再開したという話も聞こえてきており、夏場以降、スポット価格は若干下がってくるのではないかと考えています。中期的には平均価格で15ドル/kg くらいを想定しています。

Q2 : トクヤママレーシアの1Qの売上高実績が40億円で、年間の計画が110億円です。今の生産が続けば、売上は上ぶれると見てよいでしょうか？

A2 : 販売に関しては特に問題がないと考えていますので、生産が今の調子でいけば上振れする可能性はあると思います。

化成品に関して

Q3 : 前四半期から30億円程度の営業利益が続いていますが、どの製品が良くなっているのでしょうか？

A3 : 利益の出ている製品でいうと、ソーダ灰の値上げ効果が出てきたこと、VCMなどの石化製品が原料ナフサ価格下落の恩恵を受けたことに加えて、PVCが新第一塩ビ千葉工場の閉鎖によりコストが低減したことなどが寄与しています。

Q4 : 1Qの利益は、2Q以降も持続可能な水準でしょうか。

A4 : ナフサが今のような動きであれば、現状のスプレッドは維持できるであろうと考えており、2Q以降も期初予算から大きくは変動しないと見込んでいます。

セメントに関して

Q5 : 前年同期比で7億円の増益になっていますが要因を教えてください。また今後のセメント出荷の見通しはいかがでしょうか？

A5 : 輸出が増えてトータルの数量が増えたこと、石炭価格が下がっていることに加え、物流費が低減したことなどが寄与しています。国内出荷は、2Qも少し辛抱しないといけないと考えていますが、下期は若干持ち直すと見ています。

Q6 : 1Q の営業利益率は、前期に比べても高いところまできている印象ですが、中期経営計画で説明された徳山製造所の物流等のコスト低減が発現しているということでしょうか？

A6 : 徳山製造所のコスト削減は 2020 年度に向けて 40 億円ということですが、効果が出るまでにはもう少し時間がかかると見えています。今回は、石炭や C 重油の価格下落がコスト低減に寄与しています。

ライフアメニティーに関して

Q7 : 1Q の進捗から行くと、通期では予算に対して結構上ぶれるのではないのでしょうか？

A7 : 現状では、ほぼ予算並みに仕上がると思っています。

Q8 : 微多孔質フィルムについて、全般的にどういう状況なのかというのをご解説いただけますか？

A8 : 日本と中国の上海と天津で製造しております。販売は日本では堅調ですが、中国は数量面で若干苦戦しています。

財務に関して

Q9 : キャッシュが 1,300 億円ありますが、今後どのように推移するのでしょうか？いつでも優先株を買い取りできる B/S になったと考えていいですか？

A9 : 今の有利子負債 2,380 億円を 2020 年度には 1,200 億円まで減らす予定ですので、キャッシュはその返済に充てます。計画には織り込んでいませんが、順調に利益が出れば期限前の返済も検討します。優先株の償還は、中期経営計画においては、2019 年の 6 月に 200 億円一括返済することとしています。償還は 50 億円単位になっていますので、今期が順調に行って、来年の 3 月の時点で来年度も見通せるような数字が出れば、50 億円とか 100 億円を償還することも検討します。

Q10 : 来年の 3 月末に B/S が良くなれば、A 種株式を C 種株式へ移行するのでしょうか？

A10 : 権利を行使できるのは来年ではなく 2018 年 3 月末以降で、その時のトクヤマ単体の純資産の額によって判断されます。計画通り財務の改善が進み、その時に A 種株式が残っていれば C 種株式に移行する予定です。